

2023年6月

第172回 中小企業景況調査報告書 (2023年4-6月期) 〈製造業編〉

※DIとは…

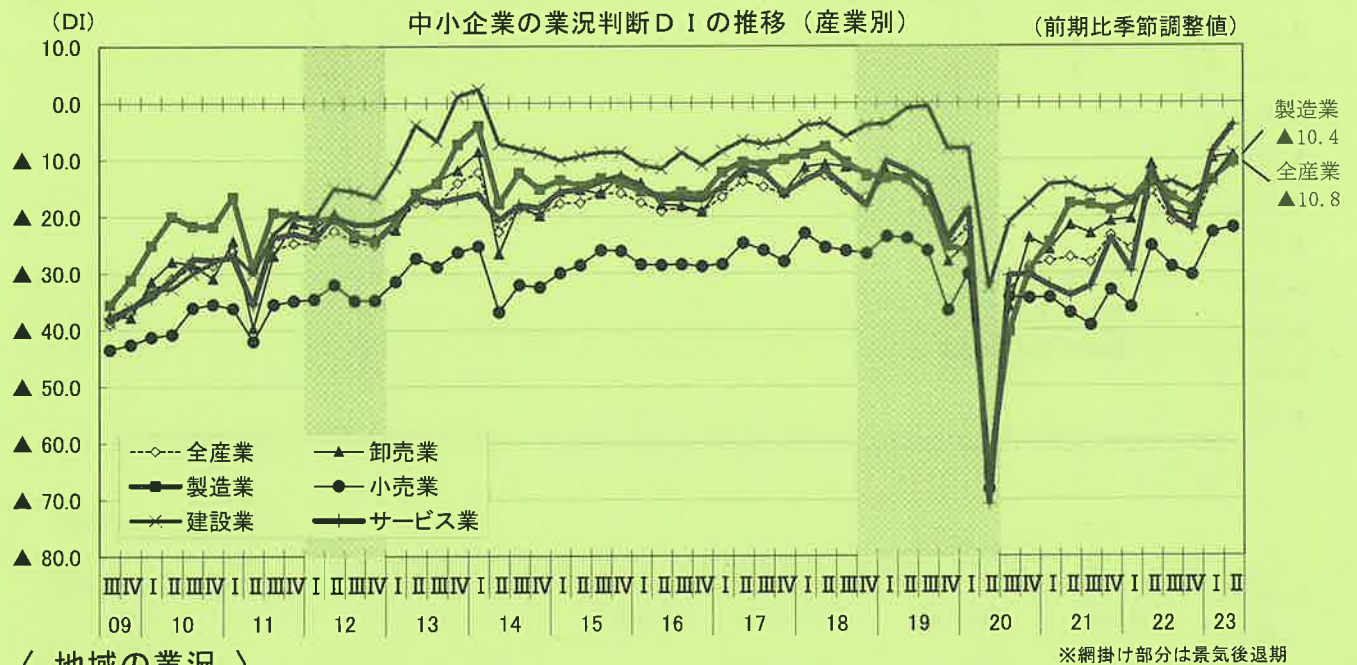
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
TEL: 03-5470-1521 (直通)

https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html

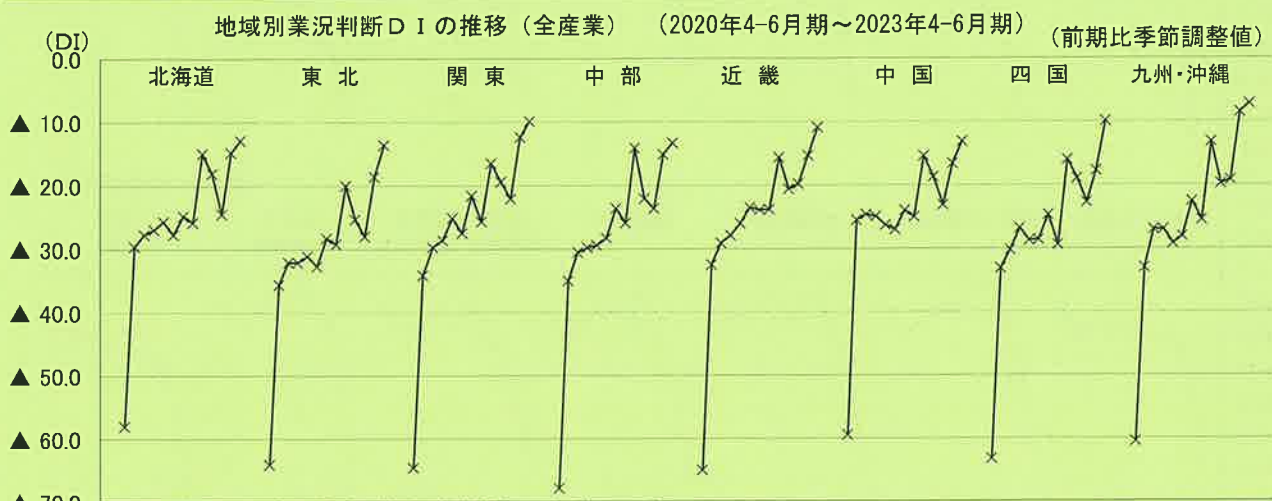
中小企業の業況判断DIは、2期連続して上昇した。

前期と比べて全産業の業況判断DIは、2期連続して上昇した。(▲13.7→▲10.8)



〈地域の業況〉

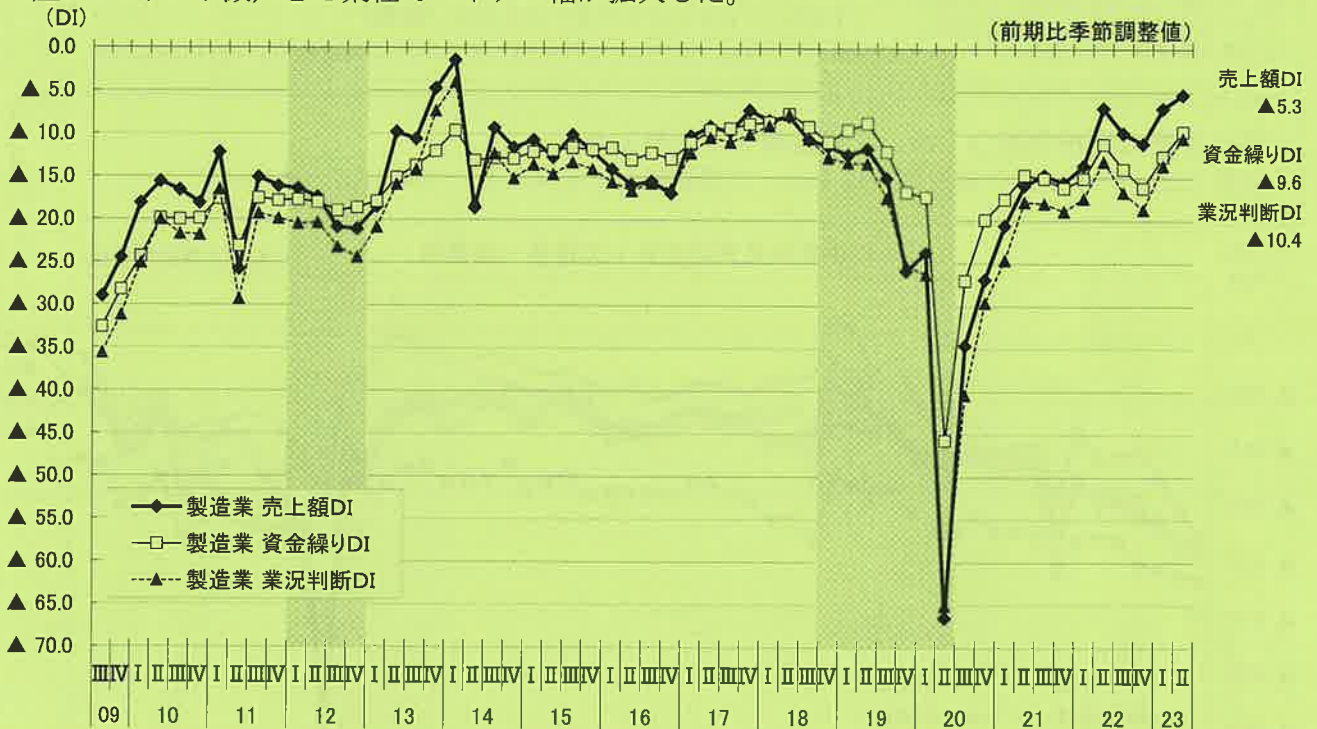
四国、東北、近畿、中国、関東、北海道、中部、九州・沖縄のすべての地域でマイナス幅が縮小した。



1. 製造業の動向

製造業の業況判断DIは、(前期▲13.6→) ▲10.4 (前期差3.2ポイント増) と2期連続してマイナス幅が縮小した。また、売上額DIは、▲5.3 (前期差1.6ポイント増)、資金繰りDIは、▲9.6 (前期差2.9ポイント増) といずれもマイナス幅が縮小した。

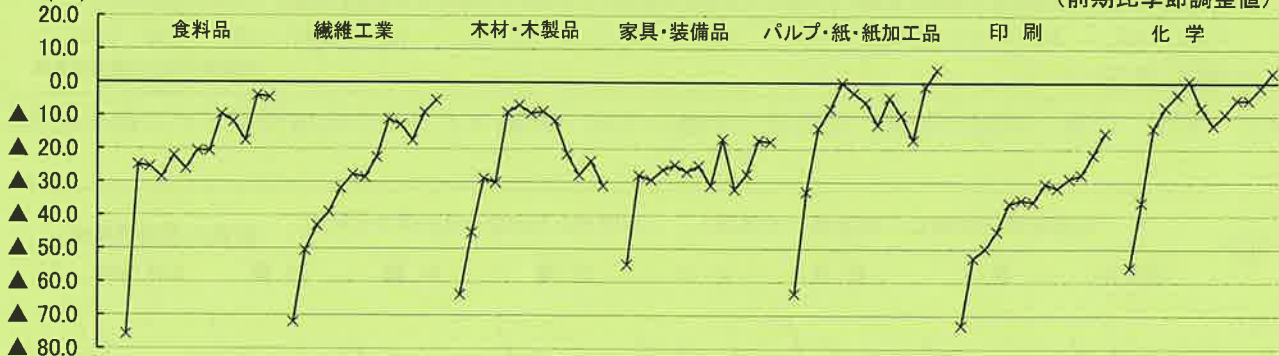
業況判断DIを14業種別に見ると、パルプ・紙・紙加工品で3.8 (前期差5.1ポイント増)、化学で3.0 (前期差4.4ポイント増) と2業種でマイナスからプラスに転じ、その他の製造業で▲9.0 (前期差12.7ポイント増)、機械器具で▲13.0 (前期差8.1ポイント増) など8業種でマイナス幅が縮小した。一方、木材・木製品で▲31.1 (前期差7.4ポイント減)、食料品で▲4.5 (前期差0.6ポイント減)、金属製品で▲14.4 (前期差0.6ポイント減)、家具・装備品で▲17.9 (前期差0.5ポイント減) と4業種でマイナス幅が拡大した。



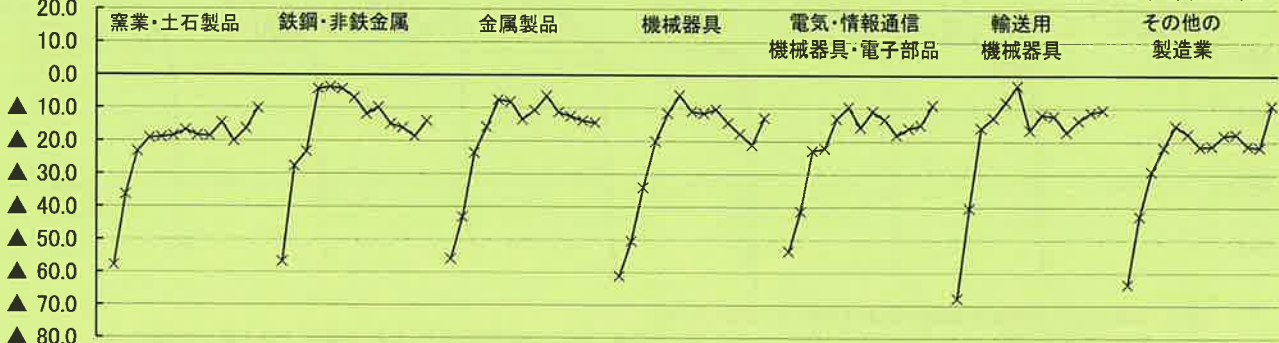
※網掛け部分は景気後退期

製造業 業種別 業況判断DI (2020年4-6月期~2023年4-6月期)

(前期比季節調整値)



(前期比季節調整値)



2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で21.1%（前期差0.6ポイント減）と減少した。
（単位：%）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2023年4-6月期	22.1	16.1	12.8	14.6	24.3	17.9	27.5	20.3	22.0	24.8	23.3	24.4	31.9	17.9	21.1
2023年1-3月期	20.2	18.4	15.1	14.2	33.9	19.1	30.1	18.7	37.0	23.5	26.2	25.4	33.0	15.6	21.7
2022年10-12月期	23.7	17.5	18.6	11.4	25.4	21.8	32.4	24.7	26.8	23.7	20.3	25.3	29.3	19.8	22.2
2022年7-9月期	21.9	12.9	16.5	12.9	23.3	18.9	29.9	24.1	28.1	26.7	23.5	25.1	29.1	16.0	21.4
2022年4-6月期	18.8	15.9	12.8	14.0	17.2	16.2	31.9	23.2	24.8	24.0	23.2	22.1	29.2	18.1	20.1

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「原材料価格の上昇」が1位にあげられており、「需要の停滞」が2位、「従業員の確保難」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (4-6月期)	原材料価格の上昇 (38.3%)	需要の停滞 (14.5%)	従業員の確保難 (8.4%)	生産設備の不足・老朽化 (7.9%)	原材料費・人件費以外の経費増加 (6.7%)
前期 (1-3月期)	原材料価格の上昇 (43.0%)	需要の停滞 (13.8%)	従業員の確保難 (8.5%)	原材料費・人件費以外の経費増加 (6.9%)	生産設備の不足・老朽化 (6.5%)

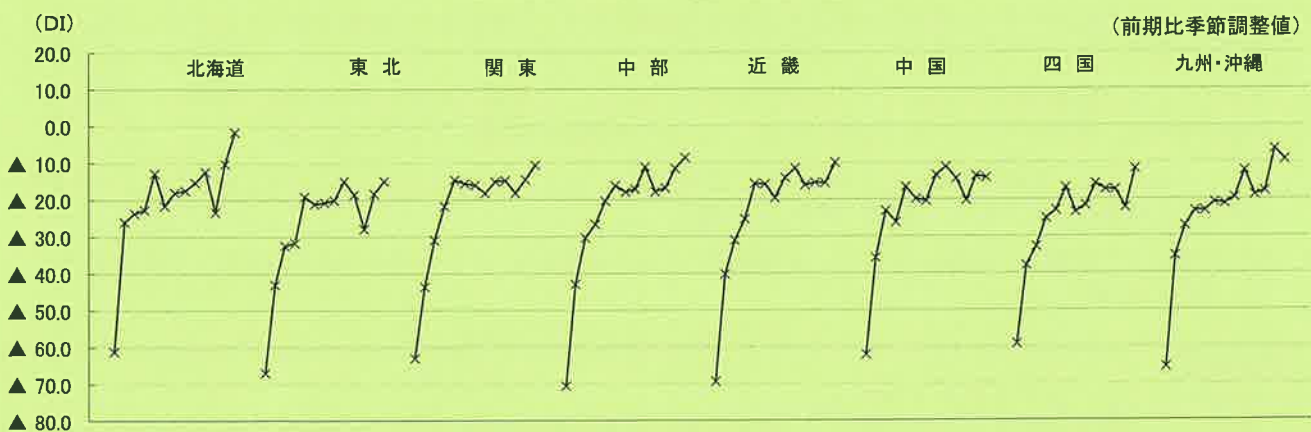
4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、四国、北海道、近畿、関東、東北、中部でマイナス幅が縮小し、九州・沖縄、中国でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

製造業

(2020年4-6月期～2023年4-6月期の動き)

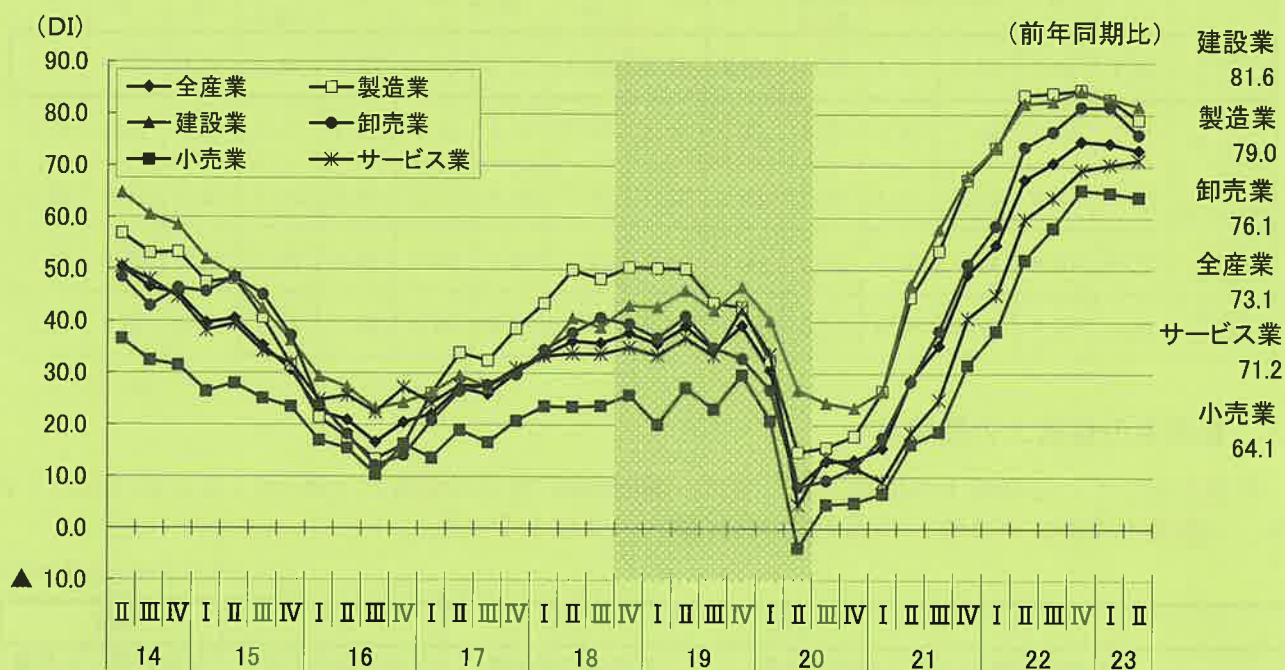


- (注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合 - 前期に比べて「悪化した」企業の割合

5. 製造業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、（前期82.9→）79.0（前期差3.9ポイント減）と2期連続して低下した。

産業別原材料・商品仕入単価D Iの推移



【調査対象企業のコメント】

- 新型コロナウイルスが5類扱いになったことで、少しずつ法事用菓子のオーダーが増えてきた。材料費の高騰が続いているため、値上げした。値上げによる売上額上昇を願う一方、値上げによる客離れを懸念している。[十勝・釧路・根室 食料品]
- 原材料高騰による値上げに関しては、お客様に調整して頂けるようになりました。エネルギーコストの上昇分の値上げについては、これからの交渉になります。[福島 機械器具]
- 売上水準は、昨年に比べ上がってきたが、電気代を始め、エネルギーコストの上昇、その他あらゆる物の価格が上がり、採算的には変わらない。そんな中、給与の見直しも行い、人件費も上昇しているの、先行きも不安な面がある。[東京 金属製品]
- 自動車関係は徐々に復調、衣料関係は堅調、4月より電気料金が更に値上げされ、加えて、部品他諸経費の値上げにより、収益的には苦戦している。[富山 繊維工業]
- 受注については好調ですが、熟練の従業員が相次いで退職されて、人材の確保が課題となっています。今後、ますます人材確保が難しくなると思うので、機械化を進めていかなければと思います。[京都 パルプ・紙・紙加工品]
- コロナウイルス問題は終息に向かっているが、引合い、受注は、まだまだ以前に比べて回復していない。原材料の高騰や電気代、運賃などで、かなり経費が逼迫しているのが現状。[鳥取 その他の製造業]
- コロナ不況により、従業員を縮小していたため、景気回復とともに、すぐには生産能力を向上させることができないので、生産量は上がらない。[愛媛 窯業・土石製品]
- 原材料値上げの影響は、依然続いている。価格転嫁がなかなか進まない中、従業員の給与の見直しも迫られている。[宮崎 印刷]

【調査要領】

- 調査時点：2023年6月1日時点
- 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,830のうち有効回答数18,088（有効回答率96.1%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,417を集計したもの。）